

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No 1

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																																																											
		評価指標と活動計画	評価																																																														
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。 (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ④学校行事の公開 ⑤地域貢献、ボランティア活動の推進	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>評定</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>① 職員研修会の実施回数 10回</td> <td>① 職員研修会の実施回数 12回</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>②-1 体験授業の参加者数 320名</td> <td>②-1 体験授業の参加者数 505名</td> <td>A</td> <td>(所見) ① コンプライアンス研修会や情報セキュリティに関する研修会等を短時間で複数回に分けて実施するなど、現状に応じた教職員の資質向上を図った。</td> </tr> <tr> <td>②-2 PTA総会参加率30%(32.1%) PTA役員会2回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施</td> <td>②-2 PTA総会参加率39.5% (32.1%) PTA役員会3回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施</td> <td>A</td> <td>②-1 コロナ禍以前の形に戻し、体験授業と体験入部を同時に実施し、多くの生徒が参加してくれた。</td> </tr> <tr> <td>②-3 学校ホームページのアクセス数 1,200,000アクセス(1,287,122アクセス)</td> <td>②-3 学校ホームページのアクセス数 1,391,148回 (2月12日)</td> <td>A</td> <td>②-3 アクセス数は昨年度より約100,000アクセス増加した。一日平均4,546アクセスとなっており、順調に推移している。</td> </tr> <tr> <td>③ 職員間協力度 100%</td> <td>③ 職員間協力度 100%</td> <td>A</td> <td>③ 学校運営等について全とで、教育活動全般において成果を上げることができた。</td> </tr> <tr> <td>④-1 学校行事の新聞掲載回数 10回 (3回)</td> <td>④-1 学校行事の新聞掲載回数 12回</td> <td>A</td> <td>④ 学校行事では限定公開という形で学校祭を実施し、保護者や兄弟が参加できた。</td> </tr> <tr> <td>④-2 文化祭来場者 1,000名(限定公開)</td> <td>④-2 文化祭来場者 850名(限定公開)</td> <td>B</td> <td>⑤ 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)</td> </tr> <tr> <td>⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)</td> <td>⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)</td> <td>A</td> <td>⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができた。清掃活動参加数においては、部活動ごとの自主的な活動と、ひまわりを植えたり、水やり、種の収穫を主に行なった。活動を通して阪神淡路大震災を振り返る機会を得て、災害を教訓とすることができた。</td> </tr> <tr> <td>⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)</td> <td>⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)</td> <td></td> <td>④-3 ホームページのアクセス数は微増であり、順調に推移している。一方で、各分掌や各部活動の更新回数が伸びておらず、対応が必要である。</td> </tr> <tr> <td>活動計画</td> <td></td> <td></td> <td>④-4 ホームページの更新回数が少ないのが現状であり、学校行事や部活動の結果等を積極的に発信する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 PTA総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確實に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ 報告・連絡・相談を徹底とともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。</td> <td></td> <td>③-1 各課とも、必要に応じてミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>④-1 学校行事や部活動等の取材について、マスコミに情報を提供し、取材の機会を増やしていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>④-2 新型コロナ5類以降に伴い、今年度の学校祭は例年通りの開催に戻りつつあったが、公開については保護者や兄弟のみの公開で行った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>⑤ 今年度は春の清掃活動の際に、「はるかのひまわりプロジェクト」の活動として、ひまわりを植え育てるボランティアを実施した。</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	① 職員研修会の実施回数 10回	① 職員研修会の実施回数 12回	A	A	②-1 体験授業の参加者数 320名	②-1 体験授業の参加者数 505名	A	(所見) ① コンプライアンス研修会や情報セキュリティに関する研修会等を短時間で複数回に分けて実施するなど、現状に応じた教職員の資質向上を図った。	②-2 PTA総会参加率30%(32.1%) PTA役員会2回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施	②-2 PTA総会参加率39.5% (32.1%) PTA役員会3回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施	A	②-1 コロナ禍以前の形に戻し、体験授業と体験入部を同時に実施し、多くの生徒が参加してくれた。	②-3 学校ホームページのアクセス数 1,200,000アクセス(1,287,122アクセス)	②-3 学校ホームページのアクセス数 1,391,148回 (2月12日)	A	②-3 アクセス数は昨年度より約100,000アクセス増加した。一日平均4,546アクセスとなっており、順調に推移している。	③ 職員間協力度 100%	③ 職員間協力度 100%	A	③ 学校運営等について全とで、教育活動全般において成果を上げることができた。	④-1 学校行事の新聞掲載回数 10回 (3回)	④-1 学校行事の新聞掲載回数 12回	A	④ 学校行事では限定公開という形で学校祭を実施し、保護者や兄弟が参加できた。	④-2 文化祭来場者 1,000名(限定公開)	④-2 文化祭来場者 850名(限定公開)	B	⑤ 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)	⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)	⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)	A	⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができた。清掃活動参加数においては、部活動ごとの自主的な活動と、ひまわりを植えたり、水やり、種の収穫を主に行なった。活動を通して阪神淡路大震災を振り返る機会を得て、災害を教訓とすることができた。	⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)	⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)		④-3 ホームページのアクセス数は微増であり、順調に推移している。一方で、各分掌や各部活動の更新回数が伸びておらず、対応が必要である。	活動計画			④-4 ホームページの更新回数が少ないのが現状であり、学校行事や部活動の結果等を積極的に発信する必要がある。	① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 PTA総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確實に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ 報告・連絡・相談を徹底とともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。		③-1 各課とも、必要に応じてミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。				④-1 学校行事や部活動等の取材について、マスコミに情報を提供し、取材の機会を増やしていく必要がある。				④-2 新型コロナ5類以降に伴い、今年度の学校祭は例年通りの開催に戻りつつあったが、公開については保護者や兄弟のみの公開で行った。				⑤ 今年度は春の清掃活動の際に、「はるかのひまわりプロジェクト」の活動として、ひまわりを植え育てるボランティアを実施した。				
評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																																																														
① 職員研修会の実施回数 10回	① 職員研修会の実施回数 12回	A	A																																																														
②-1 体験授業の参加者数 320名	②-1 体験授業の参加者数 505名	A	(所見) ① コンプライアンス研修会や情報セキュリティに関する研修会等を短時間で複数回に分けて実施するなど、現状に応じた教職員の資質向上を図った。																																																														
②-2 PTA総会参加率30%(32.1%) PTA役員会2回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施	②-2 PTA総会参加率39.5% (32.1%) PTA役員会3回 PTA研修会1回 文化祭PTAバザーの実施	A	②-1 コロナ禍以前の形に戻し、体験授業と体験入部を同時に実施し、多くの生徒が参加してくれた。																																																														
②-3 学校ホームページのアクセス数 1,200,000アクセス(1,287,122アクセス)	②-3 学校ホームページのアクセス数 1,391,148回 (2月12日)	A	②-3 アクセス数は昨年度より約100,000アクセス増加した。一日平均4,546アクセスとなっており、順調に推移している。																																																														
③ 職員間協力度 100%	③ 職員間協力度 100%	A	③ 学校運営等について全とで、教育活動全般において成果を上げることができた。																																																														
④-1 学校行事の新聞掲載回数 10回 (3回)	④-1 学校行事の新聞掲載回数 12回	A	④ 学校行事では限定公開という形で学校祭を実施し、保護者や兄弟が参加できた。																																																														
④-2 文化祭来場者 1,000名(限定公開)	④-2 文化祭来場者 850名(限定公開)	B	⑤ 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)																																																														
⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)	⑤-1 各種ボランティア活動参加 350名 (475名)	A	⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができた。清掃活動参加数においては、部活動ごとの自主的な活動と、ひまわりを植えたり、水やり、種の収穫を主に行なった。活動を通して阪神淡路大震災を振り返る機会を得て、災害を教訓とすることができた。																																																														
⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)	⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 1,000名(800名)		④-3 ホームページのアクセス数は微増であり、順調に推移している。一方で、各分掌や各部活動の更新回数が伸びておらず、対応が必要である。																																																														
活動計画			④-4 ホームページの更新回数が少ないのが現状であり、学校行事や部活動の結果等を積極的に発信する必要がある。																																																														
① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 PTA総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確實に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ 報告・連絡・相談を徹底とともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。		③-1 各課とも、必要に応じてミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。																																																															
			④-1 学校行事や部活動等の取材について、マスコミに情報を提供し、取材の機会を増やしていく必要がある。																																																														
			④-2 新型コロナ5類以降に伴い、今年度の学校祭は例年通りの開催に戻りつつあったが、公開については保護者や兄弟のみの公開で行った。																																																														
			⑤ 今年度は春の清掃活動の際に、「はるかのひまわりプロジェクト」の活動として、ひまわりを植え育てるボランティアを実施した。																																																														

【備考】評価における「評定」の基準】 A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80 %未満~70%以上達成 D : 70%未満~60%以上達成 E : 60%未満達成

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No 2

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																																																																										
		評価指標と活動計画	評価																																																																													
2 学習指導の改善 (商業教育および校務分掌別の取り組み)	<p>(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。</p> <p>(2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。</p> <p>(3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。</p> <p>②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>達成度</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 自習率 1.0%以下(0.19%)</td> <td>① 自習率 0.34%</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>②については満足度の低下の理由を分析し、向上を目指して欲しい。75%くらいを目指して欲しい。 (所見) ① 学校行事等は精選し、授業確保に努めた。依然新型コロナウイルスおよびインフルエンザが流行する時期があり、自習率に大きな変化はなかった。 ② 全学年で、授業に対する満足度は昨年度より増きたと感じている生徒が増えている。 ③については目標設定の段階で、コースごとのクラス数を踏まえて上下させてもいいのではないか。 ④については、達成度の高さは評価に値する。図書館の利用率は電子媒体の普及で増加が難しいと思うが、継続してほしい。</td> </tr> <tr> <td>② 授業満足度 80%以上</td> <td>② 授業満足度 71.2%</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③-1 全商検定3種目以上1級合格者 50名(50名)</td> <td>③-1 全商検定3種目以上1級合格者 38名</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③-2 技能奨励賞 20名(19名)</td> <td>③-2 技能奨励賞 61名</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③-3 日商簿記検定2級合格 5名(4名)</td> <td>③-3 日商簿記検定2級合格 5名</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 図書館利用者数 2,900名(2,863名)</td> <td>④-1 3,706名(100%)</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-2 一人あたりの年間読書冊数 3.8冊(3.7冊)</td> <td>④-2 4.83冊(2939冊/608名)</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-3 一人あたりの年間貸出冊数 3.1冊(3.0冊)</td> <td>④-3 3.64冊(2605冊/716名)</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-4 図書館通信の発行回数 10回(12回)</td> <td>④-4 10回(100%)</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤-1 地域連携活動テーマ数 5テーマ(5テーマ)</td> <td>⑤-1 地域連携活動テーマ数 6テーマ</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品)</td> <td>⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤-3 実践的授業の実施数 5回(5回)</td> <td>⑤-3 実践的授業試行数 5回</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活動計画</td> <td>活動計画の実施状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> ① 学校行事の精選を行い、落ち着いた学習環境を整え、授業時数の確保を行う。 ② 「学力向上」実現のため、生徒の実態にあった指導方法の工夫を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、本が身近にある環境を作る。運営は図書委員を中心に行う。 ④-2 各教科と連携し、図書館の利用を推進する。 ④-3 「図書館祭」「おすすめの本の紹介」等を充実させ、読書の啓発活動を推進する。 ④-4 「図書館通信」を通じた広報活動を充実させ、生徒が気軽に入館できる図書館作りを推進する。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施 </td> <td> ① 日程調整や時間割の工夫で、授業時数の確保に尽力し、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ② 電子黒板を活用して、ICTを活用した授業の展開ができた。生徒タブレットの整備が2学期以降となったため、十分な活用ができなかつた。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また、情報処理・簿記検定前1週間は放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、各学期に二回程度図書委員による本の借り換えを実施した。 ④-2 国語科等の授業を中心に、図書館を適宜利用した。 ④-3 「図書館祭」では、図書委員及び3年「国語表現」履修者が作成した「おすすめ本」を生徒昇降口等に展示した。また「米津玄師と文学」等、定期的にテーマを変えてミニ展示を行った。またビブリオバトルの研修に参加し、授業内で実施した。 ④-4 「図書館通信」を毎月発行し、全生徒に配布した。新刊図書の案内や先生方及び図書委員による「おすすめ本」を紹介し、入館を促した。 ⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部を中心に、地域や企業と連 </td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> ① 可能な限り授業振り替えを実施しているが、校務の多様化や教育課程が変更されたこともあり、振り替えが困難な教科もある。教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ② 平日の自宅学習時間が0の生徒が全体の約25%を占め、1時間まで生徒を含めると約85%であり、なかなか改善が進んでいない。通学距離や部活動の活動時間を考えても1時間から2時間程度の継続した自宅学習時間の確保は必要である。 ③ 高度資格については、授業や補習だけでは限界がある。1年次から自宅学習時間の確保に努めるとともに、適切な課題等を出すことにより学習意欲の向上と定着を図る必要がある。その一助として、商業系部活動への入部を促進し、1年次のオリエンテーションや各学年集会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④ 読書離れの傾向が加速する中、図書委員会をより活性化させ「学級文庫」の取組や館内及びロビー展示を充実させ、各教科や各学年と協働し、よりいっそうの読書活動を推進したい。 ⑤ 地域社会や企業等と連携した教育活動を取り入れることが課題である。学科・コースの特色を明確にし、理論と実践を往還させる学びを充実させたい。 </td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	達成度	評価指標の達成度	評定	総合評価	① 自習率 1.0%以下(0.19%)	① 自習率 0.34%	A	A	②については満足度の低下の理由を分析し、向上を目指して欲しい。75%くらいを目指して欲しい。 (所見) ① 学校行事等は精選し、授業確保に努めた。依然新型コロナウイルスおよびインフルエンザが流行する時期があり、自習率に大きな変化はなかった。 ② 全学年で、授業に対する満足度は昨年度より増きたと感じている生徒が増えている。 ③については目標設定の段階で、コースごとのクラス数を踏まえて上下させてもいいのではないか。 ④については、達成度の高さは評価に値する。図書館の利用率は電子媒体の普及で増加が難しいと思うが、継続してほしい。	② 授業満足度 80%以上	② 授業満足度 71.2%	B			③-1 全商検定3種目以上1級合格者 50名(50名)	③-1 全商検定3種目以上1級合格者 38名	B			③-2 技能奨励賞 20名(19名)	③-2 技能奨励賞 61名	A			③-3 日商簿記検定2級合格 5名(4名)	③-3 日商簿記検定2級合格 5名	A			④-1 図書館利用者数 2,900名(2,863名)	④-1 3,706名(100%)	A			④-2 一人あたりの年間読書冊数 3.8冊(3.7冊)	④-2 4.83冊(2939冊/608名)	A			④-3 一人あたりの年間貸出冊数 3.1冊(3.0冊)	④-3 3.64冊(2605冊/716名)	A			④-4 図書館通信の発行回数 10回(12回)	④-4 10回(100%)	A			⑤-1 地域連携活動テーマ数 5テーマ(5テーマ)	⑤-1 地域連携活動テーマ数 6テーマ	A			⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品)	⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品	A			⑤-3 実践的授業の実施数 5回(5回)	⑤-3 実践的授業試行数 5回	A			活動計画	活動計画の実施状況						① 学校行事の精選を行い、落ち着いた学習環境を整え、授業時数の確保を行う。 ② 「学力向上」実現のため、生徒の実態にあった指導方法の工夫を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、本が身近にある環境を作る。運営は図書委員を中心に行う。 ④-2 各教科と連携し、図書館の利用を推進する。 ④-3 「図書館祭」「おすすめの本の紹介」等を充実させ、読書の啓発活動を推進する。 ④-4 「図書館通信」を通じた広報活動を充実させ、生徒が気軽に入館できる図書館作りを推進する。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施	① 日程調整や時間割の工夫で、授業時数の確保に尽力し、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ② 電子黒板を活用して、ICTを活用した授業の展開ができた。生徒タブレットの整備が2学期以降となったため、十分な活用ができなかつた。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また、情報処理・簿記検定前1週間は放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、各学期に二回程度図書委員による本の借り換えを実施した。 ④-2 国語科等の授業を中心に、図書館を適宜利用した。 ④-3 「図書館祭」では、図書委員及び3年「国語表現」履修者が作成した「おすすめ本」を生徒昇降口等に展示した。また「米津玄師と文学」等、定期的にテーマを変えてミニ展示を行った。またビブリオバトルの研修に参加し、授業内で実施した。 ④-4 「図書館通信」を毎月発行し、全生徒に配布した。新刊図書の案内や先生方及び図書委員による「おすすめ本」を紹介し、入館を促した。 ⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部を中心に、地域や企業と連				① 可能な限り授業振り替えを実施しているが、校務の多様化や教育課程が変更されたこともあり、振り替えが困難な教科もある。教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ② 平日の自宅学習時間が0の生徒が全体の約25%を占め、1時間まで生徒を含めると約85%であり、なかなか改善が進んでいない。通学距離や部活動の活動時間を考えても1時間から2時間程度の継続した自宅学習時間の確保は必要である。 ③ 高度資格については、授業や補習だけでは限界がある。1年次から自宅学習時間の確保に努めるとともに、適切な課題等を出すことにより学習意欲の向上と定着を図る必要がある。その一助として、商業系部活動への入部を促進し、1年次のオリエンテーションや各学年集会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④ 読書離れの傾向が加速する中、図書委員会をより活性化させ「学級文庫」の取組や館内及びロビー展示を充実させ、各教科や各学年と協働し、よりいっそうの読書活動を推進したい。 ⑤ 地域社会や企業等と連携した教育活動を取り入れることが課題である。学科・コースの特色を明確にし、理論と実践を往還させる学びを充実させたい。
評価指標	達成度	評価指標の達成度	評定	総合評価																																																																												
① 自習率 1.0%以下(0.19%)	① 自習率 0.34%	A	A	②については満足度の低下の理由を分析し、向上を目指して欲しい。75%くらいを目指して欲しい。 (所見) ① 学校行事等は精選し、授業確保に努めた。依然新型コロナウイルスおよびインフルエンザが流行する時期があり、自習率に大きな変化はなかった。 ② 全学年で、授業に対する満足度は昨年度より増きたと感じている生徒が増えている。 ③については目標設定の段階で、コースごとのクラス数を踏まえて上下させてもいいのではないか。 ④については、達成度の高さは評価に値する。図書館の利用率は電子媒体の普及で増加が難しいと思うが、継続してほしい。																																																																												
② 授業満足度 80%以上	② 授業満足度 71.2%	B																																																																														
③-1 全商検定3種目以上1級合格者 50名(50名)	③-1 全商検定3種目以上1級合格者 38名	B																																																																														
③-2 技能奨励賞 20名(19名)	③-2 技能奨励賞 61名	A																																																																														
③-3 日商簿記検定2級合格 5名(4名)	③-3 日商簿記検定2級合格 5名	A																																																																														
④-1 図書館利用者数 2,900名(2,863名)	④-1 3,706名(100%)	A																																																																														
④-2 一人あたりの年間読書冊数 3.8冊(3.7冊)	④-2 4.83冊(2939冊/608名)	A																																																																														
④-3 一人あたりの年間貸出冊数 3.1冊(3.0冊)	④-3 3.64冊(2605冊/716名)	A																																																																														
④-4 図書館通信の発行回数 10回(12回)	④-4 10回(100%)	A																																																																														
⑤-1 地域連携活動テーマ数 5テーマ(5テーマ)	⑤-1 地域連携活動テーマ数 6テーマ	A																																																																														
⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品(5商品)	⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品	A																																																																														
⑤-3 実践的授業の実施数 5回(5回)	⑤-3 実践的授業試行数 5回	A																																																																														
活動計画	活動計画の実施状況																																																																															
① 学校行事の精選を行い、落ち着いた学習環境を整え、授業時数の確保を行う。 ② 「学力向上」実現のため、生徒の実態にあった指導方法の工夫を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、本が身近にある環境を作る。運営は図書委員を中心に行う。 ④-2 各教科と連携し、図書館の利用を推進する。 ④-3 「図書館祭」「おすすめの本の紹介」等を充実させ、読書の啓発活動を推進する。 ④-4 「図書館通信」を通じた広報活動を充実させ、生徒が気軽に入館できる図書館作りを推進する。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施	① 日程調整や時間割の工夫で、授業時数の確保に尽力し、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ② 電子黒板を活用して、ICTを活用した授業の展開ができた。生徒タブレットの整備が2学期以降となったため、十分な活用ができなかつた。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また、情報処理・簿記検定前1週間は放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、各学期に二回程度図書委員による本の借り換えを実施した。 ④-2 国語科等の授業を中心に、図書館を適宜利用した。 ④-3 「図書館祭」では、図書委員及び3年「国語表現」履修者が作成した「おすすめ本」を生徒昇降口等に展示した。また「米津玄師と文学」等、定期的にテーマを変えてミニ展示を行った。またビブリオバトルの研修に参加し、授業内で実施した。 ④-4 「図書館通信」を毎月発行し、全生徒に配布した。新刊図書の案内や先生方及び図書委員による「おすすめ本」を紹介し、入館を促した。 ⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部を中心に、地域や企業と連				① 可能な限り授業振り替えを実施しているが、校務の多様化や教育課程が変更されたこともあり、振り替えが困難な教科もある。教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ② 平日の自宅学習時間が0の生徒が全体の約25%を占め、1時間まで生徒を含めると約85%であり、なかなか改善が進んでいない。通学距離や部活動の活動時間を考えても1時間から2時間程度の継続した自宅学習時間の確保は必要である。 ③ 高度資格については、授業や補習だけでは限界がある。1年次から自宅学習時間の確保に努めるとともに、適切な課題等を出すことにより学習意欲の向上と定着を図る必要がある。その一助として、商業系部活動への入部を促進し、1年次のオリエンテーションや各学年集会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④ 読書離れの傾向が加速する中、図書委員会をより活性化させ「学級文庫」の取組や館内及びロビー展示を充実させ、各教科や各学年と協働し、よりいっそうの読書活動を推進したい。 ⑤ 地域社会や企業等と連携した教育活動を取り入れることが課題である。学科・コースの特色を明確にし、理論と実践を往還させる学びを充実させたい。																																																																											

【備考】評価における「評定」の基準 A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80%未満~70%以上達成 D : 70%未満~60%以上達成 E : 60%未満達成

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No.2'

重点課題	重点目標	自己評価		評定	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価				
2 学習指導の改善 (商業科を除く教科別)	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。</p> <p>(2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を図る。</p> <p>(3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展</p>	<p>評価指標【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTや効果的な教授法を導入して、生徒の主体的で深い学びを導く <p>(国語) 課題提出率98%以上 漢検受験者延べ400人以上 各単元ごとICTを効果的に活用する。</p> <p>(地歴) 課題提出率95%以上 広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る</p> <p>(公民) 課題提出率98%以上 ICT活用により関心を高め、知識の定着を図る。</p> <p>(数学) 課題提出率98% 単元によっては積極的にICTを活用する。</p> <p>(理科) 単元毎にICTの活用をし、ワークシートなどで理解度を確認する 定期考查得点率60%以上</p> <p>(保健体育) 救急救命法や妊娠、出産に関する講演会の実施 生涯体育につながるような運動の基本技術の習得</p> <p>(芸術) 演奏や作品の発表を2回以上行う。 発表では自己評価、相互評価を取り入れる</p> <p>(英語) 全商英検3級合格80%以上 グループ活動やプレゼンなどのパフォーマンステストを通して主体的に表現する機会を増やし、評価する。</p> <p>(家庭) 課題提出率100%</p>	<p>評価指標の達成度【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用が定着化し、生徒の主体化な学びに繋がる教授法の工夫が進みつつある。 <p>(国語) 課題提出率98%以上達成 漢字検定受験者は延べ414名 単元毎必要に応じてICTを活用した。</p> <p>(地歴) 課題提出率95%以上達成 基礎的知識と学力が十分に定着てきておらず、考察するところまでいかなかつた。</p> <p>(公民) 課題提出率は98%以上達成 ICT活用により関心を高めたが、知識の定着は厳しい面もある。</p> <p>(数学) 課題提出率はほぼ100% ICTを有効に活用できた。</p> <p>(理科) 視聴覚教材、プレゼンテーションソフト等を活用した授業を実施。振り返りシートを活用し、理解度の把握に務めた。</p> <p>(保健体育) 定期考查の得点率は科目やHRで差があり、50~70%内で推移</p> <p>(芸術) 救急救命法及び妊娠・出産についての講義を行った。 運動の基本技術を習得できた。</p> <p>(英語) 演奏や作品発表を各学期2回行い、学期末には自己評価、学年末相互評価を取り入れた。</p> <p>(英語) 全商英検3級合格率は73%であり、80%に及ばなかった。 ペアワークやグループ活動、パフォーマンステストを行い総合評価をした。</p>	A	B	<p>クラッシャーなどのツールを定期テストの結果や採点システムと紐付けて、生徒の学習状況の変遷や、教員の働き方改革の促進を進めてほしい。</p> <p>「ICT」の定義を明確にしてほしい。DXとICTなどは厳密には異なるものである。</p>	<p>育成を目指す資質・能力の定着に向け、指導技術や指導方法の情報交換を積極的に行うとともに校内研修を充実させる。また、タブレットと電子黒板等のICTを活用することにより授業改善を推進する。</p> <p>学習内容を工夫し、生徒の興味関心を高めるとともに、主体的・体系的に深い学びの授業づくりに取り組む。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTや実験実習を積極的に取り入れ知識の定着を図る 	(家庭) <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出率100% ・実験実習を取り入れることを心掛けたが、感染症予防の観点から調理実習は予定通りできなかった。 	B	<p>がった。生徒の主体性を客観的に図ることが次年度の課題である。</p> <p>(保健体育) ICTを積極的に活用することができた。知識や技術を活かす能力を体得させることができ課題である。</p>	
	<p>活動計画】【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と教科内外での情報交換と協働(国語) ・課題、ノートの点検と評価 ・漢検の受検準備をサポート ・単元毎ICTを活用する。 (地歴)・準備物の徹底を図り、机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し、個々への指導を充実させる。 (公民)・課題、ノートの点検と評価 ・現代社会の課題に関心を持たせ、自分の意見を表現させる。 (数学)・課題、ノートの点検と評価 ・基礎問題の反復と小テストなどによる細やかな指導 (理科)・視聴覚教材等の計画的利用 ・生徒の実態把握と問題の精選 (保健体育)・救命法については欠席者にも後日指導を徹底 ・選択種目で自己の課題に応じた取組を行わせる。 (芸術)・個々の生徒の段階に応じた指導を行い、サポートする。 (英語)・電子黒板やタブレットを活用し、効率的に情報を伝える <ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動への指導と支援 ・全商英検の受検を支援 (家庭)・課題の点検と評価 ・ICTを活用し、実験実習を5/10以上取り入れる。授業の学びが実生活に繋がる指導を行う。 	<p>活動計画の実施状況】【全教科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒タブレットの配布により、新たなICT活用の取り組みが生まれ、授業やクラス運営等での実践が広がりつつある。 (国語)・課題等の確認により、学習習慣と基礎学力の定着を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の配布等、サポートに努めた。 ・単元の内容に応じてICTを活用した。 (地歴)・授業中に必ず副教材を持ってきているか確認した。机間指導や提出物の点検を通して、基礎的知識の定着を図った。 (公民)・課題、ノートの点検と評価は的確にできた。現代社会の課題に関してはやや関心を持たせることができた。 (数学)・課題、ノートの点検、小テストを定期的に実施した。基礎問題の反復練習において個別指導を実施した。 (理科)・電子黒板を利用し、ICTの活用に努めた。調べ学習によるプレゼンテーションや考查前には演習プリントを利用し、生徒の理解力向上に努めた。 (保健体育)・より深い学びの実現のためにICT教材を活用し講義を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・種目の選択により、それぞれの課題に応じた取組を行わせた。 (芸術)・演奏課題、作品において、個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。 (英語)・授業(1、2年生)で各級の単語学習と確認テストを取り入れ、問題集等を活用し、英検対策を行った。 (家庭)・学びが実生活に繋がっているかどうかの確認は難しいが、生徒たちの授業への積極的な意欲は感じられる。 	<p>(芸術) 演奏や作品発表は授業への動機付けになった。ICTを活用して拡大した作品や奏法を見せたり、作品制作の背景や技法などを映像で理解を深めることができた。</p> <p>(英語) ICTを活用して資料やデータ、英語音声を提示することで、授業が活性化された。</p> <p>(家庭) 生徒たちの学びが実生活に活かされるよう教材や時間配当を考え計画した。また、各出張講義や資料などを活用して実生活につながるよう工夫した。</p>	<p>(理科) 実験やICTのさらなる活用によって、生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度をや養うことで、授業内容理解の深化を図る。</p> <p>(保健体育) 生涯にわたって活用できる知識や技術の習得を心掛ける必要がある。</p> <p>(芸術) ICTの活用をさらに工夫した授業により、生徒の興味関心、意欲の促進と理解の深化を図る。</p> <p>(英語) 全商英検の合格率を向上させるための継続的・効果的な指導が今後の課題である。</p> <p>(家庭) 家庭科で学んだことが実生活に結びつき、自らの生活を見直すことができる力がつくような授業や活動を目指す。</p>	

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No.3

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																						
		評価指標と活動計画	評価																								
3 人権教育の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。</p> <p>(2) これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。</p> <p>(3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実</p>	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>評価</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>① 教職員人権研修の実施回数 3回(4回)</td> <td>① 教職員人権研修の実施回数 全体研修 5回</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>② 人権問題ホームルーム活動の充実および具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(4回)</td> <td>② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回</td> <td>A</td> <td>(所見) ①回目 6月20日(木) 講師：県人権教育指導員 貴志知恵子氏 演題「生命(いのち)の安全教育講演会」 人間みな平等であり、生命の大切さ(性犯罪・性暴力等含む)について一人一人が再認識できた。</td> </tr> <tr> <td>③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回(1回)</td> <td>③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回</td> <td>A</td> <td>②回目 7月3日(水) 教職員研修会 講師：笠井智恵氏 (徳島科学技術高等学校 定時制 教諭) 演題「同和問題に関する</td> </tr> <tr> <td>④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(0回)</td> <td>④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 0回</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 3回(3回)</td> <td>④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 2回</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	① 教職員人権研修の実施回数 3回(4回)	① 教職員人権研修の実施回数 全体研修 5回	A	A	② 人権問題ホームルーム活動の充実および具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(4回)	② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回	A	(所見) ①回目 6月20日(木) 講師：県人権教育指導員 貴志知恵子氏 演題「生命(いのち)の安全教育講演会」 人間みな平等であり、生命の大切さ(性犯罪・性暴力等含む)について一人一人が再認識できた。	③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回(1回)	③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回	A	②回目 7月3日(水) 教職員研修会 講師：笠井智恵氏 (徳島科学技術高等学校 定時制 教諭) 演題「同和問題に関する	④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(0回)	④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 0回	B		④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 3回(3回)	④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 2回			<p>④-1について、この評価に「人権部」の目標・結果は問わなくてもいいのかかもしれない。HRや学校での取り組みを向上させてほしい。</p> <p>① 多様性を重んじる時代、また変化し続ける社会の中で、新たな人権課題が出てきている。すべての人の人権が尊重される社会を構築するために、すでに認識されている人権課題とともに、時代に応じた新たな人権課題についても学ぶ必要があり、そのための教職員研修や、生徒の学習形態の検討が必要である。</p> <p>② 人権問題ホームルーム活動に関して、学年会を開き、共通理解を深められるように、今後さらに取り組む必要がある。</p>
評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価																								
① 教職員人権研修の実施回数 3回(4回)	① 教職員人権研修の実施回数 全体研修 5回	A	A																								
② 人権問題ホームルーム活動の充実および具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(4回)	② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個別的人権課題に関する人権学習の実施回数 4回	A	(所見) ①回目 6月20日(木) 講師：県人権教育指導員 貴志知恵子氏 演題「生命(いのち)の安全教育講演会」 人間みな平等であり、生命の大切さ(性犯罪・性暴力等含む)について一人一人が再認識できた。																								
③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回(1回)	③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回	A	②回目 7月3日(水) 教職員研修会 講師：笠井智恵氏 (徳島科学技術高等学校 定時制 教諭) 演題「同和問題に関する																								
④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(0回)	④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 0回	B																									
④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 3回(3回)	④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 2回																										

<p>②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③教科別人権学習の実施により人権尊重精神の醸成 ④生徒の自主活動の活性化</p>	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ②・③ 教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料作成 ④-1 校外で行われる中高生等による人権研修会への参加促進 ④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施 	<p>活動計画の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全教職員対象に人権意識高揚に向けた研修会を実施した。 6月20日、7月3日、7月12日、12月13日、2月20日 ②-1 7月12日開催した生徒による人権教育啓発活動（生徒指導課・人権教育課共同啓発活動）で使用するスライドデータや資料を事前に配布し、活動内容の周知徹底を図るとともに、「いじめ対策・子どもの権利・ヤングケアラー」に関する人権教育の重要性を再確認する。 ②-2 3月13日に生徒による人権教育啓発活動「高齢者について考える（認知症の方の人権）」のスライドデータや資料を事前に配布し、活動内容の周知徹底を図るとともに、人権教育の重要性を再確認する。 ④-1 中・高生等による人権交流集会と本校吹奏楽部定期演奏会が同日開催になったため、残念ながら交流集会への参加希望生徒はいなかった。 ④-2 第1回 7月12日に「いじめ対策・子どもの権利・ヤングケアラー」について人権啓発活動を開催した。人権部PEACHが調査研究した内容をスライドにまとめ、HR人権委員と連携をとり、HRにおいて人権啓発活動を実施した。その後、生徒代表風紀委員長・人権委員長が、校内放送を利用し、全校生徒に向け、合同で呼びかけを行った。 第2回 夏休み課題の人権ポスターの優秀作品および原水爆に関する平和学習資料を校内展示した。 第3回 「高齢者問題について考える（認知症の方の人権）」のスライドデータや資料をもとに、人権部による解説をつけて動画にし、各HRで視聴した。 	<p>指導方法（模擬授業含む） 実際に模擬授業を行っていただき、今後の生徒指導に活かせる貴重な講演会であった。</p> <p>3回目 7月12日（金） 生徒による人権教育啓発活動（生徒指導課・人権教育課共同啓発活動） 内容：「いじめ対策・子どもの権利・ヤングケアラー」について 1. 人権部PEACH制作スライド視聴 2. 生徒代表風紀委員長・人権委員長が全校生徒に向け、啓発活動を校内放送にて実施した。</p> <p>4回目 12月13日（金） 全校生徒対象講演会 講師：河野陽介氏（人権教育講師 声楽家） 演題：「自分らしさって何だろう」 ジェンダー問題をはじめ、様々な人権問題（バイアス等）を具体的に確認し、互いの人権を尊重した関わりについて学んだ。また声楽家の歌声に参加者全員が魅了された。</p> <p>5回目 2月20日（木） 1・2年生対象講演会 講師：徳島県在住の障がい児と保護者 演題「未来を創る授業」「障がい児の一日密着映像」視聴後、実際に障がい児と保護者との交流を行う。共生社会について学び、今後一人一人ができるこことについて考える。</p> <p>②・③ 学年団で共通理解のもと人権問題ホームページ活動を実施した。 5月 2日（木）（1・2・3年） 5月 16日（木）（1年） 6月 6日（木）（2・3年） 11月 14日（木）（1・2・3年） R7年1月 23日（木）（2年） 1月 29日（水）（3年） 3月 13日（木）（1・2年）</p> <p>④-1 中・高生等による人権交流集会と本校吹奏楽部定期演奏会が同日開催になってしまい、残念ながら交流集会への参加希望生徒はいなかった。今後、生徒が積極的に参加するよう促していきたい。</p> <p>④-2 左記のとおり</p>	<p>③ 生徒の主体的な活動による人権教育は、大変効果的で全校生徒の人権意識が高められる。今後も、生徒の自主的な活動を継続させたい。</p>
--	---	---	---	--

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No 4

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																																																																																																												
		評価指標と活動計画	評価																																																																																																															
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重ん (3)部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞 ②基本的生活習慣の確立 ③規範意識の高揚 ④部活動を通した心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でリーダーシップを發揮できる生徒の育成	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>評定</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)</td> <td>①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%</td> <td>B</td> <td>B (所見)</td> </tr> <tr> <td>①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)</td> <td>①-2 身だしなみ達成率 84%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-3 あいさつ実施率 100%(98%)</td> <td>①-3 あいさつ実施率 88%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)</td> <td>②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)</td> <td>②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)</td> <td>③ 校則等の遵守意識率 91%</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 部活動加入率 95%</td> <td>④-1 部活動加入率 86%</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-2 壮行会の開催 4回(中止)</td> <td>④-2 壮行会の開催 3回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)</td> <td>④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)</td> <td>④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>活動計画</td> <td>活動計画の実施状況</td> </tr> <tr> <td>①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる。</td> <td>①-1 HR活動、学年集会を通して、商業高校に学ぶ生徒として、より良い社会人となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。</td> </tr> <tr> <td>①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。</td> <td>①-2 各学期および学校行事などの機会を捉えて、各学年での指導を徹底した。</td> </tr> <tr> <td>①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。</td> <td>①-3 登下校指導やHRなどを通して、さわやかな挨拶を交わすよう指導した。</td> </tr> <tr> <td>②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに対する意識を高めさせる。</td> <td>②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少數であるが遅刻を重ねる生徒に対しては、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。</td> </tr> <tr> <td>②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。</td> <td>②-2 遅刻指導については、次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。</td> </tr> <tr> <td>③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。</td> <td>③ あらゆる教育活動を通して道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。</td> </tr> <tr> <td>④-1 部活動加入の継続を図る。</td> <td>④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが、ほとんどの生徒が最後まで続けていた。</td> </tr> <tr> <td>④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。</td> <td>④-2 全校生徒が集合しての壮行会を開催することができ、選手たちの激励を学校として行うことができた。</td> </tr> <tr> <td>④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。</td> <td>④-3 コロナ禍が開けたことで、少しずつ以前の形に戻すことができている。</td> </tr> <tr> <td>④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。</td> <td>④-4 多くの部活動が四国大会・全国大会に出場したことと、部活動間での刺激も大きく、生徒たちの活動が活性化された。</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)	①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%	B	B (所見)	①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)	①-2 身だしなみ達成率 84%			①-3 あいさつ実施率 100%(98%)	①-3 あいさつ実施率 88%			②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)	②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)	B		②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)	②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)			③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)	③ 校則等の遵守意識率 91%	A		④-1 部活動加入率 95%	④-1 部活動加入率 86%	B		④-2 壮行会の開催 4回(中止)	④-2 壮行会の開催 3回			④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)	④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動			④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)	④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動			活動計画	活動計画の実施状況	①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる。	①-1 HR活動、学年集会を通して、商業高校に学ぶ生徒として、より良い社会人となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。	①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。	①-2 各学期および学校行事などの機会を捉えて、各学年での指導を徹底した。	①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。	①-3 登下校指導やHRなどを通して、さわやかな挨拶を交わすよう指導した。	②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに対する意識を高めさせる。	②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少數であるが遅刻を重ねる生徒に対しては、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。	②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。	②-2 遅刻指導については、次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。	③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。	③ あらゆる教育活動を通して道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。	④-1 部活動加入の継続を図る。	④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが、ほとんどの生徒が最後まで続けていた。	④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。	④-2 全校生徒が集合しての壮行会を開催することができ、選手たちの激励を学校として行うことができた。	④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。	④-3 コロナ禍が開けたことで、少しずつ以前の形に戻すことができている。	④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	④-4 多くの部活動が四国大会・全国大会に出場したことと、部活動間での刺激も大きく、生徒たちの活動が活性化された。	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>評定</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)</td> <td>①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%</td> <td>B</td> <td>B (所見)</td> </tr> <tr> <td>①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)</td> <td>①-2 身だしなみ達成率 84%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-3 あいさつ実施率 100%(98%)</td> <td>①-3 あいさつ実施率 88%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)</td> <td>②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)</td> <td>②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)</td> <td>③ 校則等の遵守意識率 91%</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 部活動加入率 95%</td> <td>④-1 部活動加入率 86%</td> <td>B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-2 壮行会の開催 4回(中止)</td> <td>④-2 壮行会の開催 3回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)</td> <td>④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)</td> <td>④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)	①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%	B	B (所見)	①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)	①-2 身だしなみ達成率 84%			①-3 あいさつ実施率 100%(98%)	①-3 あいさつ実施率 88%			②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)	②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)	B		②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)	②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)			③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)	③ 校則等の遵守意識率 91%	A		④-1 部活動加入率 95%	④-1 部活動加入率 86%	B		④-2 壮行会の開催 4回(中止)	④-2 壮行会の開催 3回			④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)	④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動			④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)	④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動			<p>生徒の生徒指導理解率の低下が気になる。生徒との対話を通して校則の改定を行っていると思う。商業高校としての強みを維持することとのバランスを取るのに難しいが、普通科や他校に準ずる必要はないと思う。また「校則の見直し」以上に、決めたことを守るかどうかが大切ではないか。社会人としての自覚・素養を持てるかどうか、責任を果たせるかどうかを念頭に取り組んで欲しい。</p> <p>② 今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己認識させ、絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。</p> <p>③ 全校集会をはじめ、学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる機会を通して、集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また、各学年と連携して生徒の状況把握に努め、啓発活動を定期的に行う必要がある。</p> <p>④ 四国大会・全国大会への出場部活動数が昨年度に比べて減少しているため、生徒が部活動に力を注ぎやすい環境を作っていく。各部において、今後も切磋琢磨し、全国大会出場部数を増やすていきたい。部活動の成績は、学校全体としての連帯感や愛校心を培うことに繋がっていく。四国・全国大会等で成果が出せるよう、一層取り組んでいきたい。</p> <p>入部率が低下しているが、部活動に3年間継続して取り組めるように工夫したい。</p>
評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																																																																																																															
①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)	①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%	B	B (所見)																																																																																																															
①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)	①-2 身だしなみ達成率 84%																																																																																																																	
①-3 あいさつ実施率 100%(98%)	①-3 あいさつ実施率 88%																																																																																																																	
②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)	②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)	B																																																																																																																
②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)	②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)																																																																																																																	
③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)	③ 校則等の遵守意識率 91%	A																																																																																																																
④-1 部活動加入率 95%	④-1 部活動加入率 86%	B																																																																																																																
④-2 壮行会の開催 4回(中止)	④-2 壮行会の開催 3回																																																																																																																	
④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)	④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動																																																																																																																	
④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)	④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動																																																																																																																	
活動計画	活動計画の実施状況																																																																																																																	
①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる。	①-1 HR活動、学年集会を通して、商業高校に学ぶ生徒として、より良い社会人となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。																																																																																																																	
①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。	①-2 各学期および学校行事などの機会を捉えて、各学年での指導を徹底した。																																																																																																																	
①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。	①-3 登下校指導やHRなどを通して、さわやかな挨拶を交わすよう指導した。																																																																																																																	
②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに対する意識を高めさせる。	②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少數であるが遅刻を重ねる生徒に対しては、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。																																																																																																																	
②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。	②-2 遅刻指導については、次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。																																																																																																																	
③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。	③ あらゆる教育活動を通して道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。																																																																																																																	
④-1 部活動加入の継続を図る。	④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが、ほとんどの生徒が最後まで続けていた。																																																																																																																	
④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。	④-2 全校生徒が集合しての壮行会を開催することができ、選手たちの激励を学校として行うことができた。																																																																																																																	
④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。	④-3 コロナ禍が開けたことで、少しずつ以前の形に戻すことができている。																																																																																																																	
④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	④-4 多くの部活動が四国大会・全国大会に出場したことと、部活動間での刺激も大きく、生徒たちの活動が活性化された。																																																																																																																	
評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																																																																																																															
①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(96%) 生徒 100%(96%)	①-1 生徒指導理解率 教職員 94% 生徒 72%	B	B (所見)																																																																																																															
①-2 身だしなみ達成率 100%(98%)	①-2 身だしなみ達成率 84%																																																																																																																	
①-3 あいさつ実施率 100%(98%)	①-3 あいさつ実施率 88%																																																																																																																	
②-1 皆勤賞の取得率 40%(20%) 精皆勤賞の取得率 60%(45%)	②-1 皆勤賞 20%(12月31日現在) 精皆勤賞 54%(12月31日現在)	B																																																																																																																
②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)	②-2 遅刻率 0.6%(12月31日現在)																																																																																																																	
③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)	③ 校則等の遵守意識率 91%	A																																																																																																																
④-1 部活動加入率 95%	④-1 部活動加入率 86%	B																																																																																																																
④-2 壮行会の開催 4回(中止)	④-2 壮行会の開催 3回																																																																																																																	
④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)	④-3 地域や中学生との交流会の実施 6部活動																																																																																																																	
④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)	④-4 全国大会・四国大会出場部数 (秋以降に開催された大会) 14部活動																																																																																																																	

【備考】評価における「評定」の基準】 A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80%未満~70%以上達成 D : 70%未満~60%以上達成 E : 60%未満達成

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 N o 5

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																																																									
		評価指標と活動計画	評価																																																											
5進路指導の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>(1)自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。</p> <p>(2)望ましい勤労観・職業観を養成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。</p> <p>(3)進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①進路指導のガイドライン設定と教職員への周知</p> <p>②進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施</p> <p>③ICTを活用した進路情報の確実な伝達</p> <p>④個別指導の充実</p> <p>⑤個性・能力の伸長と適切な進路サポート</p> <p>⑥求人獲得と職場開拓</p>	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回実施</td> <td>A</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回</td> <td></td> <td>② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回実施</td> <td>A</td> <td>(所見)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③-1 進路資料室の利用クラス 21クラス</td> <td></td> <td>③-1 進路資料室の利用クラス 15クラス</td> <td>B</td> <td>①② 学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが、共通理解が不十分な点も見られた。1、2年生における段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③-2 新聞日誌 年間124日</td> <td></td> <td>③-2 新聞日誌 (1・2学年) 年間124日 (3学年) 年間103日</td> <td></td> <td>③ 新聞日誌・新聞週課題の実施により、習慣的に新聞を読む生徒が増えてきた。今後も、思考力・表現力の強化を目指して継続させたい。また、進路室を有効に活用し、生徒が積極的に進路研究を行う機会をさらに増やしたい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④ 進路決定に対する満足度 96%</td> <td></td> <td>④ 進路決定に対する満足度 96.9%</td> <td>A</td> <td>④ さまざまな状況の変化に対応するために、特に、3学年と就職課・進学課との緊密な連携を図りたい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (2学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (3学年) 1学期 21日 2学期 32日</td> <td></td> <td>⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (2学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (3学年) 1学期 21日 2学期 30日</td> <td>A</td> <td>⑤ 年度当初予定から定期考査実施日が変更になったことと積雪の恐れのため、2学期が2日減、3学期が1日減での実施となった。 補習において、検定合格に向けた適切な指導を継続させたい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑥-1 訪問企業数 185社 会社見学 30社 生徒 50名</td> <td>⑥-1 訪問企業数 (県内外) 156社 会社見学 72社 生徒 48名</td> <td>A</td> <td></td> <td>⑥ 生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を深めながら今後も100%を目指したい。 入学後からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。各学年団と連携しながら、進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意付けを図りたい。 コロナ禍で中断していたインターナシップを本年度より再開することができた。1・2年のうちから高い意識を持って取り組めさせたい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑥-2 就職内定率 100% (100%)</td> <td>⑥-2 就職内定率 100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>活動計画</td> <td>活動計画の実施状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td> <p>① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入</p> <p>④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施</p> <p>⑤ 早朝補習の実施 (1学年) 国語(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (2学年) 数学(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (3学年) 国語・数学・英語・小論文の補習を実施</p> </td> <td> <p>① 教室掲示を積極的に行うことにより、適切に情報提供を行った。生徒状況の把握と連携について、学年団と相談しながら、効果的な進路指導を継続させたい。</p> <p>② 生徒への校内進路説明会・相談会・出張講義を予定通り実施することができた。今後も、出張講義・大学訪問等も含め、積極的に計画・実施したい。</p> <p>③-1 就職・進学それぞれの資料をわかりやすく整理した。受験報告書を閲覧する生徒が増えた。クラス単位での利用を全クラスにできるよう取り組みたい。</p> <p>③-2 新聞日誌・新聞週課題を実施することで、特に3年生の面接や小論文試験対策につながった。</p> <p>④ 進路実現に向けて、早期からの進路研究体制をさらに整えること、また保護者との共通理解を深める必要がある。</p> <p>⑤-1 早朝補習の実施 (1学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・国語、創造科は商業を実施。 (2学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・数学、創造科は商業を実施。 (3学年) 4月から11月まで実施。 国語・数学・英語・小論文を希望制で実施。</p> <p>⑤-2 休業中補習の実施 (1学年) 夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。</p> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価指標	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回	評価指標の達成度	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回実施	A	総合評価		② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回		② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回実施	A	(所見)		③-1 進路資料室の利用クラス 21クラス		③-1 進路資料室の利用クラス 15クラス	B	①② 学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが、共通理解が不十分な点も見られた。1、2年生における段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。		③-2 新聞日誌 年間124日		③-2 新聞日誌 (1・2学年) 年間124日 (3学年) 年間103日		③ 新聞日誌・新聞週課題の実施により、習慣的に新聞を読む生徒が増えてきた。今後も、思考力・表現力の強化を目指して継続させたい。また、進路室を有効に活用し、生徒が積極的に進路研究を行う機会をさらに増やしたい。		④ 進路決定に対する満足度 96%		④ 進路決定に対する満足度 96.9%	A	④ さまざまな状況の変化に対応するために、特に、3学年と就職課・進学課との緊密な連携を図りたい。		⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (2学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (3学年) 1学期 21日 2学期 32日		⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (2学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (3学年) 1学期 21日 2学期 30日	A	⑤ 年度当初予定から定期考査実施日が変更になったことと積雪の恐れのため、2学期が2日減、3学期が1日減での実施となった。 補習において、検定合格に向けた適切な指導を継続させたい。		⑥-1 訪問企業数 185社 会社見学 30社 生徒 50名	⑥-1 訪問企業数 (県内外) 156社 会社見学 72社 生徒 48名	A		⑥ 生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を深めながら今後も100%を目指したい。 入学後からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。各学年団と連携しながら、進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意付けを図りたい。 コロナ禍で中断していたインターナシップを本年度より再開することができた。1・2年のうちから高い意識を持って取り組めさせたい。		⑥-2 就職内定率 100% (100%)	⑥-2 就職内定率 100%					活動計画	活動計画の実施状況					<p>① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入</p> <p>④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施</p> <p>⑤ 早朝補習の実施 (1学年) 国語(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (2学年) 数学(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (3学年) 国語・数学・英語・小論文の補習を実施</p>	<p>① 教室掲示を積極的に行うことにより、適切に情報提供を行った。生徒状況の把握と連携について、学年団と相談しながら、効果的な進路指導を継続させたい。</p> <p>② 生徒への校内進路説明会・相談会・出張講義を予定通り実施することができた。今後も、出張講義・大学訪問等も含め、積極的に計画・実施したい。</p> <p>③-1 就職・進学それぞれの資料をわかりやすく整理した。受験報告書を閲覧する生徒が増えた。クラス単位での利用を全クラスにできるよう取り組みたい。</p> <p>③-2 新聞日誌・新聞週課題を実施することで、特に3年生の面接や小論文試験対策につながった。</p> <p>④ 進路実現に向けて、早期からの進路研究体制をさらに整えること、また保護者との共通理解を深める必要がある。</p> <p>⑤-1 早朝補習の実施 (1学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・国語、創造科は商業を実施。 (2学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・数学、創造科は商業を実施。 (3学年) 4月から11月まで実施。 国語・数学・英語・小論文を希望制で実施。</p> <p>⑤-2 休業中補習の実施 (1学年) 夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。</p>			
評価指標	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回	評価指標の達成度	① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回実施	A	総合評価																																																									
	② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回		② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回実施	A	(所見)																																																									
	③-1 進路資料室の利用クラス 21クラス		③-1 進路資料室の利用クラス 15クラス	B	①② 学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが、共通理解が不十分な点も見られた。1、2年生における段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。																																																									
	③-2 新聞日誌 年間124日		③-2 新聞日誌 (1・2学年) 年間124日 (3学年) 年間103日		③ 新聞日誌・新聞週課題の実施により、習慣的に新聞を読む生徒が増えてきた。今後も、思考力・表現力の強化を目指して継続させたい。また、進路室を有効に活用し、生徒が積極的に進路研究を行う機会をさらに増やしたい。																																																									
	④ 進路決定に対する満足度 96%		④ 進路決定に対する満足度 96.9%	A	④ さまざまな状況の変化に対応するために、特に、3学年と就職課・進学課との緊密な連携を図りたい。																																																									
	⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (2学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (3学年) 1学期 21日 2学期 32日		⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (2学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (3学年) 1学期 21日 2学期 30日	A	⑤ 年度当初予定から定期考査実施日が変更になったことと積雪の恐れのため、2学期が2日減、3学期が1日減での実施となった。 補習において、検定合格に向けた適切な指導を継続させたい。																																																									
	⑥-1 訪問企業数 185社 会社見学 30社 生徒 50名	⑥-1 訪問企業数 (県内外) 156社 会社見学 72社 生徒 48名	A		⑥ 生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を深めながら今後も100%を目指したい。 入学後からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。各学年団と連携しながら、進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意付けを図りたい。 コロナ禍で中断していたインターナシップを本年度より再開することができた。1・2年のうちから高い意識を持って取り組めさせたい。																																																									
	⑥-2 就職内定率 100% (100%)	⑥-2 就職内定率 100%																																																												
	活動計画	活動計画の実施状況																																																												
	<p>① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入</p> <p>④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施</p> <p>⑤ 早朝補習の実施 (1学年) 国語(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (2学年) 数学(ビジネス探究科のみ)および商業科目の補習を実施 (3学年) 国語・数学・英語・小論文の補習を実施</p>	<p>① 教室掲示を積極的に行うことにより、適切に情報提供を行った。生徒状況の把握と連携について、学年団と相談しながら、効果的な進路指導を継続させたい。</p> <p>② 生徒への校内進路説明会・相談会・出張講義を予定通り実施することができた。今後も、出張講義・大学訪問等も含め、積極的に計画・実施したい。</p> <p>③-1 就職・進学それぞれの資料をわかりやすく整理した。受験報告書を閲覧する生徒が増えた。クラス単位での利用を全クラスにできるよう取り組みたい。</p> <p>③-2 新聞日誌・新聞週課題を実施することで、特に3年生の面接や小論文試験対策につながった。</p> <p>④ 進路実現に向けて、早期からの進路研究体制をさらに整えること、また保護者との共通理解を深める必要がある。</p> <p>⑤-1 早朝補習の実施 (1学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・国語、創造科は商業を実施。 (2学年) 6月から1月まで実施。 探究科は、商業・数学、創造科は商業を実施。 (3学年) 4月から11月まで実施。 国語・数学・英語・小論文を希望制で実施。</p> <p>⑤-2 休業中補習の実施 (1学年) 夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。</p>																																																												

	⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施	(2学年) 夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。 (3学年) 就職対策（国・数）、進学対策（国・数・英・小論文）を実施。	
	⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開	⑥-1 5月より就職担当教員企業訪問 86社訪問	
【備考】評価における「評定」の基準】	A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80%未満～70%以上達成 D : 70%未満～60%以上達成 E : 60%未満達成	⑥-2 生徒の会社見学を延べ72社実施した。	

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 N o 6

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																						
		評価指標と活動計画	評価																									
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1)施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2)ICTの活用等により、教科指導の充実や校務の効率化を図り、教育の情報化を推進する。 (3)自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会で活躍できる資質を養う。 (詳細レベル) ①ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ②ICTの活用による授業改善と校務の効率化 ③自国の文化及び異文化への理解	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>① クリアデスク実施率 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100% (100%)</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>① クリアデスク 96.5% セキュリティポリシー遵守率 100%</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 70% (70%) パソコン教室の利用度 100% (100%) 共有フォルダの利用度 100% (100%)</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 80% パソコン教室の利用度 90% 共有フォルダの利用度 100%</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>③ 国際交流活動回数 5回 (5回)</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>③ 国際交流活動回数 6回</td> </tr> </table> <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報漏洩等の防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ② 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ③ シェーラベルク職業学校の生徒と国際交流を行い、異文化との相互理解を深め、国際社会で活躍できる資質を養う。 	評価指標	① クリアデスク実施率 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100% (100%)	評価指標の達成度	① クリアデスク 96.5% セキュリティポリシー遵守率 100%	評価指標	② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 70% (70%) パソコン教室の利用度 100% (100%) 共有フォルダの利用度 100% (100%)	評価指標の達成度	② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 80% パソコン教室の利用度 90% 共有フォルダの利用度 100%	評価指標	③ 国際交流活動回数 5回 (5回)	評価指標の達成度	③ 国際交流活動回数 6回	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評定</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table> <p>活動計画の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 情報セキュリティポリシーを適宜見直し、情報漏洩等の防止につなげている。 ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を行っている。 ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し、情報資産の取り扱い向上につながった。 ②-1 電子黒板の活用は定着しているが、生徒タブレットの故障が相次ぎ、ICTの活用に支障が生じた。 ②-2 教員用ファイルサーバ及び共有フォルダ等の活用は定着している。 ③ ドイツシェーラベルク職業学校来校 本校の生徒と国際交流 4日間 ・ビジネス探究科2学年 四国大学の留学生本校に来校 1回 四国大学を訪問して交流 1回 	評価指標	評定	総合評価	評価指標の達成度	A	A	評価指標の達成度	A	A	評価指標の達成度	A	A	<p>① 今後も学期末などの機会を通して、注意喚起を行い、セキュリティのさらなる向上および、情報漏洩等の防止に努めたい。</p> <p>② 今後も講習会などを開催し、ICT機器を活用した授業実践を推進していきたい。</p> <p>③ 今年度は、海外からの訪問団の受入や生徒の渡航など直接交流が多くできた。今後もこれらの活動を持続し異文化を理解し尊重する態度や能力を持った生徒を育成していきたい。</p>
評価指標	① クリアデスク実施率 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100% (100%)																											
評価指標の達成度	① クリアデスク 96.5% セキュリティポリシー遵守率 100%																											
評価指標	② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 70% (70%) パソコン教室の利用度 100% (100%) 共有フォルダの利用度 100% (100%)																											
評価指標の達成度	② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 80% パソコン教室の利用度 90% 共有フォルダの利用度 100%																											
評価指標	③ 国際交流活動回数 5回 (5回)																											
評価指標の達成度	③ 国際交流活動回数 6回																											
評価指標	評定	総合評価																										
評価指標の達成度	A	A																										
評価指標の達成度	A	A																										
評価指標の達成度	A	A																										

【備考】評価における「評定」の基準】 A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80%未満~70%以上達成 D : 70%未満~60%以上達成 E : 60%未満達成

令和6年度総括評価表

徳島県立徳島商業高等学校 No.7

重点課題	重点目標	自己評価		評定	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策																																																																																																																																																							
		評価指標と活動計画	評価			学校関係者の意見																																																																																																																																																								
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育の推進	(全体レベル) (1)生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2)自他の命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3)整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4)学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5)有権者として、自らの判断で適切に権利行使できる政治的教養を(詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ③校内美化に向けての実践力の育成 ④環境教育の充実 ⑤主権者教育の充実	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>評価指標の達成度</td> <td>評定</td> <td>総合評価</td> </tr> <tr> <td>①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回)</td> <td>①-1 食に関するアンケートを実施し、調理実習などに活用している。</td> <td>A</td> <td>A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かした。</td> </tr> <tr> <td>①-2 3年生を対象として卒業前に「地域人材活用の料理講習会」を実施する。 年1回(1回)</td> <td>①-2 1月の学年末考査後に実施。</td> <td>A</td> <td>①-2、3 12月にフードデザイン授業で遊山箱弁当の講習会を行い3年生32名が県産の食材を使い弁当を作った。食育通信は、年間を通してフードデザインを選択している生徒が中心となって作成し、季節にあった食生活を示したり、環境に配慮して啓発を行ったりした。</td> </tr> <tr> <td>①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒への啓発を行う。 年2回(2回)</td> <td>①-3 11月の文化祭等で展示を実施。 展示 2回 食育通信 3回発行</td> <td>A</td> <td>①-4～7 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、保健指導・講習会等を実施し、適切に対応した。</td> </tr> <tr> <td>①-4 保健だよりの発行 12回(12回)</td> <td>①-4 保健だより発行 12回</td> <td>A</td> <td>② 生徒が主体となって防災意識を高めることができるよう、避難訓練時には環境委員が避難経路の確認を行った。</td> </tr> <tr> <td>①-5 ホームルーム活動 年1回(1回)</td> <td>①-5 ホームルーム活動 1回</td> <td>A</td> <td>③ 環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。</td> </tr> <tr> <td>①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回)</td> <td>①-6 薬物乱用防止教室 1回</td> <td>C</td> <td>④-1、2 ゴミの分別、節電・節水を各クラスで紙面で呼びかけた。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめての報告となるので意識を定着させるのは難しい。</td> </tr> <tr> <td>①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回)</td> <td>①-7 心肺蘇生法講習会 1回</td> <td>C</td> <td>⑤ 講演等だけでなく、ホームルームや授業等において、主権者としての意識を高めることが必要である。また、教員の意識の醸成も必要である。</td> </tr> <tr> <td>② 防災啓発活動の実施 年1回</td> <td>② 9月1日防災アピールは各教室にて環境委員が実施。 7月に地震津波避難訓練と講演会、12月に火災避難訓練を実施。</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 清掃状況の点検と改善 年3回</td> <td>③ 清掃活動の点検 3回実施</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導 (常時)</td> <td>④-1 常時担当教員が指導している</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-2 節電・節水の推進を図る。 毎月の使用量を教室、廊下に掲示 (常時)</td> <td>④-2 各教室に掲示し、節電・節水を呼びかけている。</td> <td>A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 講演会や生徒による発表会を行い、主権者としての意識の醸成を図る。 年3回(3回)</td> <td>⑤ 市選挙管理委員会による講演や模擬投票は諸事情により実施できなかったが、徳島大学の饗場和彦教授による講演会を実施した。また、授業等により意識醸成を行った。(年1回)</td> <td>C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>活動計画</td> <td>活動計画の実施状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。</td> <td>①-1 食に関するアンケートを実施した。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。</td> <td>①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。</td> <td>①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う)</td> <td>①-4 保健だよりの発行、文化祭保健展、掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-5 生徒の健康課題を取り扱い、生活の改善を図る。</td> <td>①-5 11/21ホームルーム活動を実施し、心身の健康づくりのための取組を行った。(1年生生活習慣・2年心の健康・3年歯科保健)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。</td> <td>①-6 1学年を対象に、薬物乱用防止教室を実施した。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。</td> <td>①-7 1学年を対象に、消防署による普通救命講習を実施した。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。</td> <td>② 避難訓練では環境委員が避難経路の確認、誘導を行った。防災クイズを通して防災意識を高めることができた。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。</td> <td>③ 学期毎に行った。身の回りの環境や節電・節水を意識するように定期的に実施していく。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。</td> <td>④-1 清掃時ゴミ出しの場所に担当教諭と係生徒が立ち、ゴミの分別をチェックしている。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 授業やホームルーム活動、講演会等において主権者教育を実施することにより、自らが国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。</td> <td>④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し節電節水を呼びかけ、自分たちにできることを考える機会を作った。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤ 徳島大学の饗場和彦教授による講演を実施した。また、授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回)	①-1 食に関するアンケートを実施し、調理実習などに活用している。	A	A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かした。	①-2 3年生を対象として卒業前に「地域人材活用の料理講習会」を実施する。 年1回(1回)	①-2 1月の学年末考査後に実施。	A	①-2、3 12月にフードデザイン授業で遊山箱弁当の講習会を行い3年生32名が県産の食材を使い弁当を作った。食育通信は、年間を通してフードデザインを選択している生徒が中心となって作成し、季節にあった食生活を示したり、環境に配慮して啓発を行ったりした。	①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒への啓発を行う。 年2回(2回)	①-3 11月の文化祭等で展示を実施。 展示 2回 食育通信 3回発行	A	①-4～7 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、保健指導・講習会等を実施し、適切に対応した。	①-4 保健だよりの発行 12回(12回)	①-4 保健だより発行 12回	A	② 生徒が主体となって防災意識を高めることができるよう、避難訓練時には環境委員が避難経路の確認を行った。	①-5 ホームルーム活動 年1回(1回)	①-5 ホームルーム活動 1回	A	③ 環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。	①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回)	①-6 薬物乱用防止教室 1回	C	④-1、2 ゴミの分別、節電・節水を各クラスで紙面で呼びかけた。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめての報告となるので意識を定着させるのは難しい。	①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回)	①-7 心肺蘇生法講習会 1回	C	⑤ 講演等だけでなく、ホームルームや授業等において、主権者としての意識を高めることが必要である。また、教員の意識の醸成も必要である。	② 防災啓発活動の実施 年1回	② 9月1日防災アピールは各教室にて環境委員が実施。 7月に地震津波避難訓練と講演会、12月に火災避難訓練を実施。	A		③ 清掃状況の点検と改善 年3回	③ 清掃活動の点検 3回実施	A		④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導 (常時)	④-1 常時担当教員が指導している	A		④-2 節電・節水の推進を図る。 毎月の使用量を教室、廊下に掲示 (常時)	④-2 各教室に掲示し、節電・節水を呼びかけている。	A		⑤ 講演会や生徒による発表会を行い、主権者としての意識の醸成を図る。 年3回(3回)	⑤ 市選挙管理委員会による講演や模擬投票は諸事情により実施できなかったが、徳島大学の饗場和彦教授による講演会を実施した。また、授業等により意識醸成を行った。(年1回)	C		活動計画	活動計画の実施状況							①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。	①-1 食に関するアンケートを実施した。							①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。	①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。							①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。	①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。							①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う)	①-4 保健だよりの発行、文化祭保健展、掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。							①-5 生徒の健康課題を取り扱い、生活の改善を図る。	①-5 11/21ホームルーム活動を実施し、心身の健康づくりのための取組を行った。(1年生生活習慣・2年心の健康・3年歯科保健)							①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。	①-6 1学年を対象に、薬物乱用防止教室を実施した。							①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。	①-7 1学年を対象に、消防署による普通救命講習を実施した。							② 防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。	② 避難訓練では環境委員が避難経路の確認、誘導を行った。防災クイズを通して防災意識を高めることができた。							③ 環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。	③ 学期毎に行った。身の回りの環境や節電・節水を意識するように定期的に実施していく。							④ 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。	④-1 清掃時ゴミ出しの場所に担当教諭と係生徒が立ち、ゴミの分別をチェックしている。							⑤ 授業やホームルーム活動、講演会等において主権者教育を実施することにより、自らが国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。	④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し節電節水を呼びかけ、自分たちにできることを考える機会を作った。								⑤ 徳島大学の饗場和彦教授による講演を実施した。また、授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。						
評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																																																																																																																																																											
①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回)	①-1 食に関するアンケートを実施し、調理実習などに活用している。	A	A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かした。																																																																																																																																																											
①-2 3年生を対象として卒業前に「地域人材活用の料理講習会」を実施する。 年1回(1回)	①-2 1月の学年末考査後に実施。	A	①-2、3 12月にフードデザイン授業で遊山箱弁当の講習会を行い3年生32名が県産の食材を使い弁当を作った。食育通信は、年間を通してフードデザインを選択している生徒が中心となって作成し、季節にあった食生活を示したり、環境に配慮して啓発を行ったりした。																																																																																																																																																											
①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒への啓発を行う。 年2回(2回)	①-3 11月の文化祭等で展示を実施。 展示 2回 食育通信 3回発行	A	①-4～7 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、保健指導・講習会等を実施し、適切に対応した。																																																																																																																																																											
①-4 保健だよりの発行 12回(12回)	①-4 保健だより発行 12回	A	② 生徒が主体となって防災意識を高めることができるよう、避難訓練時には環境委員が避難経路の確認を行った。																																																																																																																																																											
①-5 ホームルーム活動 年1回(1回)	①-5 ホームルーム活動 1回	A	③ 環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。																																																																																																																																																											
①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回)	①-6 薬物乱用防止教室 1回	C	④-1、2 ゴミの分別、節電・節水を各クラスで紙面で呼びかけた。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめての報告となるので意識を定着させるのは難しい。																																																																																																																																																											
①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回)	①-7 心肺蘇生法講習会 1回	C	⑤ 講演等だけでなく、ホームルームや授業等において、主権者としての意識を高めることが必要である。また、教員の意識の醸成も必要である。																																																																																																																																																											
② 防災啓発活動の実施 年1回	② 9月1日防災アピールは各教室にて環境委員が実施。 7月に地震津波避難訓練と講演会、12月に火災避難訓練を実施。	A																																																																																																																																																												
③ 清掃状況の点検と改善 年3回	③ 清掃活動の点検 3回実施	A																																																																																																																																																												
④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導 (常時)	④-1 常時担当教員が指導している	A																																																																																																																																																												
④-2 節電・節水の推進を図る。 毎月の使用量を教室、廊下に掲示 (常時)	④-2 各教室に掲示し、節電・節水を呼びかけている。	A																																																																																																																																																												
⑤ 講演会や生徒による発表会を行い、主権者としての意識の醸成を図る。 年3回(3回)	⑤ 市選挙管理委員会による講演や模擬投票は諸事情により実施できなかったが、徳島大学の饗場和彦教授による講演会を実施した。また、授業等により意識醸成を行った。(年1回)	C																																																																																																																																																												
活動計画	活動計画の実施状況																																																																																																																																																													
①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。	①-1 食に関するアンケートを実施した。																																																																																																																																																													
①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。	①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。																																																																																																																																																													
①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。	①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。																																																																																																																																																													
①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う)	①-4 保健だよりの発行、文化祭保健展、掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。																																																																																																																																																													
①-5 生徒の健康課題を取り扱い、生活の改善を図る。	①-5 11/21ホームルーム活動を実施し、心身の健康づくりのための取組を行った。(1年生生活習慣・2年心の健康・3年歯科保健)																																																																																																																																																													
①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。	①-6 1学年を対象に、薬物乱用防止教室を実施した。																																																																																																																																																													
①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。	①-7 1学年を対象に、消防署による普通救命講習を実施した。																																																																																																																																																													
② 防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。	② 避難訓練では環境委員が避難経路の確認、誘導を行った。防災クイズを通して防災意識を高めることができた。																																																																																																																																																													
③ 環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。	③ 学期毎に行った。身の回りの環境や節電・節水を意識するように定期的に実施していく。																																																																																																																																																													
④ 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。	④-1 清掃時ゴミ出しの場所に担当教諭と係生徒が立ち、ゴミの分別をチェックしている。																																																																																																																																																													
⑤ 授業やホームルーム活動、講演会等において主権者教育を実施することにより、自らが国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。	④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し節電節水を呼びかけ、自分たちにできることを考える機会を作った。																																																																																																																																																													
	⑤ 徳島大学の饗場和彦教授による講演を実施した。また、授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。																																																																																																																																																													

【備考】評価における「評定」の基準】 A : 100%達成 B : 80%以上達成 C : 80%未満～70%以上達成 D : 70%未満～60%以上達成 E : 60%未満達成